

蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 第1回会議録

招 集 日	平成29年1月24日（火曜日）	
開催場所	蓮田市役所 2階 201会議室	
開催日時	開会 平成29年1月24日（火）午後5時00分 閉会 平成29年1月24日（火）午後6時40分	
出席状況	会 長 中山 和久	出席 ・ 欠席
	副会長 浅田 章裕	出席 ・ 欠席
	委 員 中里 幸一	出席 ・ 欠席
	委 員 廣本 覺	出席 ・ 欠席
	委 員 田口 真悟	出席 ・ 欠席
	委 員 吉澤 一徳	出席 ・ 欠席
	委 員 藤井 政範	出席 ・ 欠席
	委 員 高橋 恵美子	出席 ・ 欠席
	委 員 寺澤 亜希子	出席 ・ 欠席
	委 員 天野 真治	出席 ・ 欠席
出席職員	【蓮田市まち・ひと・しごと創生本部員】 蓮田市長 中野 和信 副市長 新井 勉 教育長 西山 通夫 総合政策部長 渡辺 実紀夫 総務部長 増田 和詔 環境経済部長 小林 裕 健康福祉部長 椿本 美栄子 都市整備部長 田島 幸則 上下水道部長 亘 宏邦 会計管理者 加賀谷 武憲 消防長 岡野 和男 学校教育部長 宗方 健二 生涯学習部長 小林 健一郎 議会事務局長 千代 康弘 監査委員事務局長 田口 久雄 都市整備部参事 （区画整理担当） 治田 敬人 都市整備部参事 （西口再開発担当） 中田 美稔 生涯学習部参事 （文化スポーツ担当） 松永 幸一	
その他の出席者	広報広聴課長 金子 克明	
傍聴者	1 名	

資料の確認	(略)
1. 開会	(竹澤調整幹)
2. あいさつ ・中山会長挨拶	(中山会長) 皆様こんにちは。今日で我々の仕事は最後ということになりますので、実りある議論をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。 (竹澤調整幹) ありがとうございます。 中野市長におかれましては、今こちらの会場に向かっております。到着いたしましたら、ご挨拶申し上げます。
3. 委嘱式	【新井副市長より、人事異動により新たにまち・ひと・しごと創生有識者会議委員になられた埼玉県利根地域振興センター藤井政範様に委嘱書の交付】
委員自己紹介	(藤井委員) 皆様こんばんは。昨年4月に利根地域振興センターに異動でまいりました藤井と申します。よろしくお願いいたします。 私にとってこのようなグレードの高い方々が出席される会議に出席するのは初めてでございまして、戸惑っているところでございます。蓮田市は伸びしろのある市だと思っております。「蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」を拝見させていただきました。人口ビジョンでは40～50年後に人口が5万人程度と書かれておりますけれども、約140事業もの戦略を地道に行っていたいただければ、きっと大丈夫なのだろうと思います。僭越ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。
定足数の確認	(竹澤調整幹) 会議開催要件の説明、出席者数（10名全員）、会議成立の報告。
傍聴希望者の確認	(竹澤調整幹) 傍聴人の確認、傍聴希望者1名の報告。 (竹澤調整幹) では、これより先、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条第2項の規定により、中山会長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。それでは中山会長、どうぞよろしくお願いいたします。
4. 議事	(中山会長) それでは、これより先、本日の議事を進行させていただきたいと思います。皆様ご協力のほど、よろしくお願いいたします。それでは、
1) 地方創生を巡る最近の動向と蓮田市の人口動向について	議事1「地方創生を巡る最近の動向と蓮田市の人口動向について」、 議事2「蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」、 議事3「地方創生関連交付金事業について」 は、全て関連がございましたので、事務局に一括して説明をお願いしたいと思います。
2) 蓮田市まち・ひと・しごと創生総合	(事務局) 【資料2～5説明】

戦略の進捗状況について	【途中、市長到着により挨拶】
3) 地方創生関連交付金事業について ・途中、中野市長挨拶	(中野市長) 皆様こんばんは。お忙しいところ大変ありがとうございます。説明の段階で中断してしまい、申し訳ございません。 本日は、平成28年度第1回目のまち・ひと・しごと創生有識者会議でございます。皆様方の貴重なご意見をいただきながら、おかげさまで、「蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。蓮田市では、国の地方創生の施策が展開される前から、市役所全体の仕事をそれぞれの部署で調整しております。今回、国の施策に則って、事業の精度を高め、整理して、皆様方にご提示しているところでございます。143事業ありますが、実際には内部で検討している事業はもっとたくさんございます。その中から、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にふさわしい事業をいろいろご指導していただいているわけでございます。大変ありがとうございます。今後は、国の交付金にリンクさせた形でより一層展開できれば大変ありがたいと思っております。本日も貴重なご意見を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。 (竹澤調整幹) ありがとうございました。 なお、市長、副市長におかれましては、この後所用のため、中座させていただくことをお許し願います。 (事務局) 【資料2～5説明】 資料4のまち・ひと・しごと創生総合戦略評価シートについては、蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略で、施策の評価体制について、「客観的な数値目標や重要業績評価指標（KPI）を設定し、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議において、施策を検証し、評価・改善を図るPDCAサイクルの仕組みを構築します」とされていることから、現時点での施策の検証、評価、今後の改善策についてご意見等いただければと思います。 また、資料5の地方創生関連交付金事業評価シートについても、国に対して外部有識者の評価を報告する必要があることから、現時点での施策の検証、評価、今後の改善策についてご意見等いただければと思います。 よろしくお願いいたします。 (中山会長) ありがとうございました。 ただ今、事務局から資料2から資料5について一括して説明していただきました。 そもそもこの有識者会議が設置されたのは、国が地方創生を推進するために、行政主導ではなく、自立性、官民協働、地域間連携、政策間連携という4つの柱でもって、市民、民間、大学、産業界、金融界等との協働、市内の地域間連携や松川町など他の地域との連携といったことが重要な要素であり、キーワードとなっているからでございます。 委員の皆様も様々な活動をなさっておられるかと思います。それらの活動を

通じて、地方創生に繋がるようなご提案等により、蓮田市を活性化させる取組が実現できればと思います。

今回の有機者会議は、PDCAサイクルにより、資料4の蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、資料5の地方創生関連交付金事業について、検証、評価し、改善策について提案することが主な内容でございます。今回議題が3つ挙げられておりますが、議題1に係る資料3について意見するのは難しいと思います。また、資料5については、資料4から抜き出したものとか資料4の内容を組み替えたものなどがありますので、資料4と資料5を分けて議論するのはあまり生産的ではないと思います。そこで、資料4と資料5を一括して、これを柱として、資料3、も含めて、議題1、2、3を一括して議論していきたいと思います。達成度の検証については、目標値が客観的に妥当性があるのかどうか難しい問題もありますが、一応数値や達成度が出ておりますので、これを評価し検証していただければと思います。まち・ひと・しごと創生総合戦略ができてからまだわずか10か月程度しか経っておりませんが、10か月の中での実感とか委員の皆様が自ら取り組まれたことをご紹介いただくような形で、検証、評価についてご意見いただいて、そして改善策についてご提案いただければと思います。

それでは、それぞれの委員の皆様方の評価が必要になりますので、順番に中里委員から、評価と改善策についてご意見いただきたいと思います。

(中里委員)

資料5の3ページのところで、公開型地理情報システムの利用者満足度の目標値が10%とされております。スタートは0%で、現在は36.1%にまで数値が上がっているということを踏まえると、目標値設定が少し低かったのではないかと思います。A評価が必要なのではなく、実質的な数値目標をもう少し具体的に必要のところまで上げていくことが事業を充実させていくことになるのではないかと思います。

(中山会長)

ありがとうございます。10%という目標値が妥当だったのかどうかとのことです。でも、そもそもの目標値の妥当性についても委員の皆様から評価、検証いただければと思います。それでは、廣本委員、いかがですか。

(廣本委員)

各都道府県、各市町村、同じことを行っているわけですが、他の団体と比較しても遜色ないプランができあがったのではないかと思います。皆様の努力に感謝申し上げます。

問題は、これからどれだけできるかということです。我々委員もいろいろな提案はできました。実際にこれを実施していくのは、市役所の職員の方々が中心となっていきます。どれだけがんばってできるかということは、乞うご期待ということになるのではないかと思います。

平成31年を目標としていますが、かなりのプランが31年中にできるようなものではなくて、未来へも続くものが入っております。その辺についてどのように判断するのかということは、かなり難しいのかなと思います。いずれにしてもこの計画が動き始めると、民間である我々も応援をすることができるようになってくる部分がかなり増えてくると思います。とりあえず最初は、市役所の皆様が指揮をふるっていただいて、運営していくしかないのかなと思います。

それからもう1点ですが、このような活動をしているということを市は市民に伝えていると思っているかもしれませんが、少なくとも私が住んでいるところでは、このような活動をしていること自体をほとんどの住民が知りません。で

はどれほど知らせる努力をしているのかということが非常に大きなポイントとなります。活動の内容の良し悪しよりも、活動していること自体をどう皆様に知っていただくかということに注力していただくと大変ありがたいと思います。東京都では都知事がいろいろなことを開放して見せようという努力をしておりますが、蓮田市はそれ以上に住民に近いところでいろいろなことを見せていただけたらと思います。そうすると、いずれはそのような人たちから評価をされるようになってきます。それがまたバイタリティになって、方針変更になり、また良いものに改善されて、さらに良いものができる、このような繰り返しができるようになっていけることを望みます。施策の中でこのようなことに取り組み始めているということが入っているともっとありがたいと思います。いずれにしても、これからよろしく願いいたします。

(中山会長)

ありがとうございます。それでは、田口委員、よろしく願いいたします。

(田口委員)

私も、一般市民として、143の事業があり、また実行されているということについて、初めて知ったことが多いです。蓮田市ではこのようなことを対策として取り組んでいるということを告知していくのと同時に、私も商工会の青年部の代表として来ておりますので、施策の中で協力できることがあれば、どんどん各課の方からお声掛けをいただければ、いろいろなアイデアを提案し、協力できる事業等があるかと思います。回答になっていないかもしれませんが、素直な思いでございます。

(中山会長)

ありがとうございます。私どもの「子ども大学はすだ」についても、やっと広報はすだでご紹介していただきまして、市民の方もこのようなものがあるのだったら自分も参加してみようということになってきています。去年は吉澤委員にずいぶんご協力をいただきました。このような輪ができていけば、先ほど廣本委員がおっしゃったような、市民の方からやってやるぞといったような動きが出てくるのではないのかな、と思いました。

それでは、吉澤委員、よろしく願いいたします。

(吉澤委員)

待機児童の解消についての説明の中で、民間の花星保育園が整備されたということでしたが、私の子どもも花星保育園に通っております。ものすごい建物を建てていただきまして、ありがとうございます。

資料にも書いてある通り、3番目以降の児童の保育費が無料ということも、私は3人とも保育園に入れておりますので、非常に助かっております。この政策については大変ありがたく思っております。

それと、私梨農家でございますので、特産品の方に目が行ってしまうのですが、けれども、資料4の6ページNo.8の事業で、梨農家の担い手募集や手放す予定の梨畑のあっせんなどがあり、このようことはやはり市役所でしかできないことだと思います。また、担い手募集というのは、農協も関係してくると思います。子育て支援施策の中で愛育班という名前が出てきます。No.8の事業にも農協の名前を掲載したほうが、わかりやすいのかなと思います。

(中山会長)

ありがとうございました。確かに具体的な名前を出さないとわかりにくいと

ころがあるかと思います。固有名詞を出すことで、市民の方々もイメージがつかみやすく、自分の団体もこの事業に関わっているということがイメージ化されることにより、市民の皆様が立ち上がってくるのかなと思います。そのような流れを創り出すことができるとと思いますので、書き方について具体的でないのは良くないのかなと思いました。

それでは、金融界から、天野委員、よろしくお願いいたします。

(天野委員)

先日市内のお客様のところを回っている最中に、蓮田でふるさと納税をすると、卵をもらえ、卵だけでなく、いろいろな品目があるということを初めて知ってうれしくなったという話を聞きました。蓮田の市民もまち・ひと・しごと創生総合戦略について具体的にはわからないのしょうけれども、その良さについて実感しているところなのかなと印象を受けている次第です。

いろいろなたくさんの施策がございますが、今のところ10か月しか経っていないということで、それぞれアクションのところは継続していきますとか、これから努めていきますとかという結びになっております。もう少し時間が経つと、それぞれの施策の中で、ひょっとしたら止めるべきものとか、先ほどもありましたが改善するべきもの等色分けができてくるとと思います。KPIの測定の作業は大変だと思いますが、しっかりと施策のPDCAのサイクルを回していただければという感想でございます。

(中山会長)

ありがとうございます。確かに金融団体にとってふるさと納税等金銭関係のものについては市民の生活に直結いたしますから、この辺で金融団体と連携をとれると、ますますこのような事業が身近になってくるのかなと思いました。

また、止めていくべきもののご意見ですが、まだ10か月しか経っておりませんので、どれを止めろというのは難しいものかと思いますが、今後委員の中で再任される委員もいらっしゃるかと思いますから、その中では、止めるべきものという提言も必要になってくるのかなと思いました。

それでは、子育て関係からということで、寺澤委員、よろしくお願いいたします。

(寺澤委員)

各課でいろいろな施策について知恵を絞って出していただきまして、市民としては大変ありがたく思います。この素晴らしい事業が市民一人ひとりにどのようにしたら行きわたるのかといったことを、また知恵を絞って考えていかなければならないのかなと思います。というのは、子育てに関しましても、赤ちゃんから幼児になり、幼児から小児になるというのはとても早く過ぎ去っていくものなので、その時々ピンポイントで、必要な情報、知識をどのように取り入れるのかということについては、大変スピード感が求められると思います。市役所と市民で、市民も受け身ではなく、自分から情報を入手する、取り入れる努力をするにはどうしたら良いのかということを考えていかなければならないのかなと思います。

(中山会長)

確かにスピード感が必要な子育ての分野で、市民の方々が自立的に細かく取り組んでいかないと、行政だけでは現実的に回っていかないとしました。

通信の大学院で、自分たちの地域で何かやりたいから大学院で勉強していますという60～70代の学生がいます。その方は埼玉県狭山市の方なのですが、地

域活動として子育て支援カフェを現在運営しておりまして、そのような流れを行政任せではなくて、市民で作っていかなければならないというご意見は本当に貴重なご意見だと思います。

それでは、教育関係で、高橋委員、よろしくお願いいたします。

(高橋委員)

蓮田の教育環境は、自分たちで言うのもどうかとは思いますが、整っているかと思います。子どもたちの学力も大変良いところまでいっています。せっかくここまで育ててきたこの子たちをこのままよそへ定住されるのではなく、どうにか蓮田に戻ってきてもらえるような環境を整えていくには、これだけいろいろと取り組んでいただいていることを、先ほど廣本委員がおっしゃったように、多くの方に知ってもらう必要があると思います。また、いろいろなPR活動をしていただいているようなので、蓮田市内だけではなくいろいろな所へ出向いていただいて、多くの人に蓮田の良さを知っていただければ、もっといろいろな方が興味を持ってくださるかと思います。蓮田から巣立っていく子どもたちが、よそで活躍しながらも蓮田に戻ってこられるような環境が作れるように頑張っていかなければならないのかなと思います。

それと、貸農園事業や空き家対策等も実施していただいています。私のようにある程度年齢を重ねていくと、趣味を生かしながら安心して生活をしたいという方も多くいらっしゃるかと思います。東京に住んでいる方の中にも地方で農業をして安心して暮らしたいと思っている方もいらっしゃるのかなと思いますので、そのような方たちにも蓮田は頑張っているということをPRしていただければと思います。

(中山会長)

ありがとうございます。確かに蓮田市で教育を施したのに、市外に行かれて、向こうでお金を稼いでいるというのはあまり良い状況ではないですね。蓮田で学んだ方が蓮田で起業してもらって、東京から従業員を引っ張ってくるといことも必要かなと思います。

人間総合科学大学では、4月から「ヘルスフードサイエンス学科」という新しい学科を作り、フードビジネスを担う人材を養成したいと思っています。ぜひ、また市民の皆様にご協力いただいて、ゆくゆくは、蓮田市内で起業をする人材を生み出したいなと思っています。

それでは、最後に新しく入りました藤井委員、よろしくお願いいたします。

(藤井委員)

資料5の6ページにございます「はすだFutureプロジェクト」ですが、2～3日前に全国紙に大きく取り上げられていたことに関連するものなのかなと思います。全国紙に掲載されますと、良いPRになると思いますので、非常に苦労されたかと思うのですが、埼玉版でしたので、今度は全国版に掲載されることを視野に入れて今後活動を進めていただきますと、多くの方々の目に触れますから、がんばっていただければと思った次第でございます。

高橋委員の方から今教育関係の話が出ましたが、私は高崎線の北の方の市民なので、蓮田市には昨年初めて来たというのが正直なところでございますがあまり知らなかったのですけれども、昨年、確か小学校6年生と中学校3年生の学力検査の結果で、蓮田市が上位にあり、びっくりしたところです。私には中学生の子どもが2人いるのですが、子どもを抱える親から見れば、教育力が高いというのは非常に興味があることでございます。賛否両論ありますが、転入促進ということを考えて、これをPRしても良いのではないかという印象を持ってい

ます。

蓮田市ではこの他職員を集めて政策研究会議を実施していることも聞いているのですが、その会議の中でも学力を高める事業をお考えになっているようでございますので、そういったことを地道に行っていただけると良いのではないのかなと思いました。

(中山会長)

ありがとうございました。

私どもの大学では、おかげさまで包括協定を蓮田市と締結させていただきまして、No.143の大学等連携事業はかなり順調に進んでいるところです。今後ますます市民の皆様方にご協力いただき、蓮田市を盛り上げていきたいと考えております。地域連携センターも実務的に動き始めたところでございますので、教育力の向上についても大学が何か関われるのではないのかなと考えています。もちろん子ども大学を充実させていくということもありますけれども、来月は市民大学に私どもの講師を派遣しますので、今後益々大学の知を蓮田の教育力向上に振り向けて、蓮田市が良くなっていけばよいのかなと思っております。

また、No.143の事業だけでなく、他の項目についても大学が顔を出せるような改善策を出せればと考えております。具体的にこれはというものはまだ出せないのですけども、今後実施していきたいと考えています。

それでは、青年会議所の浅田副会長、いかがでしょうか。

(浅田副会長)

青年会議所も人間総合科学大学と子ども大学を実施させていただいたり、商工会議所青年部と雅楽谷の森フェスティバルを開催させていただいたり、去年9月には街コンという新たな取組を行わせていただきました。

街コンについては、今回告白タイムのようなものは設けず、電話番号の交換だけということで、まだ成立カップルは調査中でございますけれども、新しく取り組んでみる、チャレンジしてみるということが重要だと思っています。同時に、いろいろな取組について廣本委員はじめ皆様から意見がありましたけれども、こういうことに取り組んでいるということを市民に広報していくという活動も非常に重要なのかなと皆様の意見を聞きながら感じました。

(中山会長)

ありがとうございました。

先ほど、中里委員はトップバッターだったので、遠慮して一つしか意見が言えなかったのかなと思うのですが、もう一言二言いただいてもよろしいでしょうか。

(中里委員)

皆様が今お話しいただいた通りで、方向性としては、構築された評価シートの内容は素晴らしいものだと思っております。

資料3で人口動向の数値についても示していただいたのですけども、基本的にまちを創生すること、まちの活性化につなげるというのは、人口増だと思うのですね。産業にしても、子育てにしても、教育にしても、若い人をこれからいかに蓮田に定着させていくかということから全て始まるのではないかと思います。所管課がいろいろとお知恵を出していただいて143もの事業を出したのですけども、出生から育児、子育て、学校はずっと関連しています。そして、学校を卒業したら就職する場がないといけないとか、蓮田に住みたいといったら基盤整備をどうにかしないといけないとか、全てつながるのです。

高齢化が進んでいると言われている地域ですが、高齢者が蓮田に来たいと思っているとは思えないのですよね。ここにいる人たちが5年経ち、10年経てば高齢化をしていくのです。ただし、若い人の分母を増やせば、決して高齢化の比率は上がらないと思います。いかに若い人にまちづくりに携わってもらえるかという施策は、もう少し各課で連携してプロジェクトチームみたいなものが作れるように、一貫性を示せるプランがあったら良いのかなと思います。例えば、先ほどから細かい数値のことばかり言って申し訳ないのですが、学童保育がもう31年の目標値より1人余計に達成しています。しかし、それでもねがやど保育所ではまだ待機児童がいる。KPIが100%達成したけれども待機児童がいるというのは良いことではないので、その辺のところは誰が見てもわかるような取組をなされたら良いのではないかと思います。各課が連携されて、まちづくりという一つの方向性を目指していただければ、素晴らしいまちになるのではないのかなと感じました。

(中山会長)

ありがとうございます。

達成したというのは、市民の中で困っている人がいなくなったというのが本来の達成度なわけで、100%達成が目的というよりは困っている人が少なくなっていくという方向の方が良いというのは、中里委員のおっしゃる通りだと思います。達成度を100%にしたいので、目標値を低めに見積もるという気持ちもわかりますが、そういうことで逃げるのもよくないと思います。ある程度重点項目、特に市民の関心が高い項目については、もう少し欲張った達成目標というものを市としてあえてチャレンジしてよいのかなと私も思いました。

一通りご意見をいただいたのですけれども、これについてももう少し深く意見を言いたいという方はいらっしゃいますでしょうか。

(田口委員)

先ほど藤井委員から新聞で「はすだFutureプロジェクト」のことが取り上げられていたということがありましたけれども、蓮田市がマスコミに注目されるような、何か一つキラリと光る施策があっても良いのかなと思いました。先週夕方のニュースを見ていたら、空き家対策として東京都内に一軒家を借りると、保育や医療について何か特典が受けられて、かつそこに10年住むと家がもらえるということが特集されていました。先ほど廣本委員もおっしゃっておられましたけれども、全国の市町村にまち・ひと・しごと創生有識者会議というものが置かれていて、どこも一緒のことを行っていると思います。その中で、何かマスコミに注目される目玉を一つ作って、蓮田市がこのようなことを行っているということがニュース番組を通じて、全国に放送されることによって、PRになるのかなと一つ思いました。

(中山会長)

ありがとうございました。

空き店舗で事業を行えば店舗をもらえるということであれば、梨の加工品を販売する起業主が入ってくることも考えられます。そういうこととうまく連携させることで、地方から取り上げられて全国紙に出てくる、あるいは全国番組に取り上げられるといったことで、また移住者が増えてくるという良い循環を蓮田市にもたらすと思います。せっかく梨があるので、個人的には梨が良いのかなと思っています。

(藤井委員)

改善策というか、質問なのですが、資料4の6ページでNo.5「ふるさと納税記念品贈呈事業」というのがあります。特定の自治体が税収を上げている状況で、賛否両論あるところですが、蓮田市で6品目追加されたというのは、どのような記念品を追加されたのでしょうか。

(渡辺総合政策部長)

ふるさと納税記念品贈呈事業は平成27年7月から23品目で始めた事業ですが、その後広く記念品贈呈事業者の募集を行いました。この新たに加わった6品目につきましては、株式会社魚庄さんのうなぎパックや、株式会社東光高岳さんの水素水、お茶の田村さんの粉末茶、今まで1万円コースしかなかった幸水・豊水の2万円コースの追加、たこやきはすだこさんのたこ焼きでございます。

ふるさと納税については、埼玉県では鶴ヶ島市の鉄道模型が人気になっています。そういった人気のある商品を蓮田市でも見つけていければ良いと考えております。

それから、松川町と友好姉妹都市の盟約を締結しておりますので、松川町のりんごを蓮田市のお礼の品にし、蓮田市のお酒を松川町のお礼の品にするような相互連携についても現在検討を進めているところでございます。

(吉澤委員)

ふるさと納税の記念品について、人気のトップ3について教えてください。

(渡辺総合政策部長)

一番は、お酒です。豊水・幸水・彩玉を合算すると梨が一番になります。三番目が青汁です。

(吉澤委員)

青汁ですか。健康志向なのですかね。

(中山会長)

意外な感じがしますが、ヘルスフードサイエンス学科もうまいくかもしれないと思いました。

(吉澤委員)

そのような状況を聞きますと、梨農家が現在高齢化で年に10軒ずつくらいやめていっていますので、維持するのであれば力を入れていただきたいと思います。

(中山会長)

そうですね。空き家対策ではありませんが、空き家に住めば、梨農家になれるとかそんなふうにおそらく既存の枠組みの中でできなくもないのかなと思います。先ほど中里委員もおっしゃっていましたが、どうしても担当課で縦割りになっているとすることがなかなか難しくなっているのかもしれない。外の人から見たニーズベースでお酒とか梨とか青汁が人気なのであれば、その目線に乗かって、縦割りを廃したプロジェクトチームで、連携し、田口委員もおっしゃったようにキラリと光る目玉事業をとりあえず実施していく。お酒でも良いし、梨でも良いし、検討して、改善策として盛り込む価値があるのかなと考えます。

それでは時間も大分迫ってまいりましたので、ほかにご意見・ご提案等がな

5. その他	ければ、以上をもちまして、本日の議事については終了とさせていただきます。 会議の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。議事進行を事務局にお返しいたします。 (竹澤調整幹) ありがとうございました。続きまして、議題5のその他といたしまして、事務局から連絡事項がございます。 (事務局) 本日はありがとうございました。 最初に中山会長からお話があった通り皆様の任期は6月3日までということになりますので、今回の有識者会議をもって皆様との会議は最後となります。皆様の貴重なご意見をいただきながら策定した「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」がちょうど今動き始めたということから、当初の目的は果たせたのではないかと思います。 今後この有識者会議のメンバーについては、全くの未定であります。これまでのご尽力につきまして、深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。 (竹澤調整幹) 以上を持ちまして本日の議事は全て終了いたしました。閉会にあたりまして浅田副会長からご挨拶をお願いいたします。
6 閉会挨拶	(浅田委員) 皆様、本日はお忙しい中、まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席いただきまして誠にありがとうございました。 2年の任期ということで、本日の会議で終了となります。私もはじめてこの有識者会議に参加させていただいて、どうすれば蓮田市に移り住んで、定住していただけるのか、どうしたらそのような事業ができるのかなというところで、青年会議所の街コンもそうなのですが、様々な取組をさせていただきました。 この会議はこれで終了ということですが、田口委員も先ほどおっしゃっていた通り、143の各事業について、各団体、関係者、ここにありますので、何かご協力できることがあれば、お声がけいただければと思います。 それでは、ただ今をもちまして、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会いたします。 本日はお疲れ様でした。